

## 歴史-1 日本書紀 (黒羽藩版)

日本最古の官撰された国史で、編さんは天武天皇の修史事業に始まるといわれ、舎人親王が中心となって720 (養老4) 年に成立しました。書名の「日本」は中国等の史書に対抗する日本の正史を意味します。全30巻で、初めの2巻は神代 (第1巻の系図は未伝承)、他の28巻は神武~持統天皇までを漢文の編年体で記しています。歌謡は長・短歌謡あわせて128首ほどあります。中央集権国家の基礎を築く上で中国の文物制度の



需要は必至で、「日本書紀」は、日本の伝承と記録に漢籍の故事や成句を多数取り混ぜて、荘厳な日本の歴史を編成しようとした努力の集大成ともいえます。写真の右ページには、612年に推古天皇が蘇我氏が讃えた「宇摩奈羅麼、辟宇武伽能古摩」(馬ならば日向の駒)の記述が見られます。中央政府では日向の馬がすばらしいと思われていたようです。